

実施主体

上越市教育委員会

## 平成19年度国際教育推進プラン報告書

## 1 実施主体

新潟県 上越市教育委員会

## 2 実践学校名

中核校：上越市立針小学校，上越市立板倉中学校

協力校：上越市立宮嶋小学校，上越市立山部小学校，上越市立豊原小学校

## 3 連携先NPO法人等名

国立大学法人上越教育大学，上越国際交流協会，  
NPO法人上越地域学校教育支援センター

## 4 平成19年度の実践活動

## (1) 市教育委員会として

## ① 取組内容

ア 新たにワーキンググループ会議（以下WG会議）を立ち上げ，推進主体として機能させた。

イ より分かりやすく，取り組みやすくすることをねらいとして見直しを図り，「平成19年度上越市国際教育推進プラン」の全体計画を作成した。

ウ 児童生徒の実態から考えて，3つの学習活動設定の視点（異文化理解学習，郷土学習，コミュニケーションスキル習得学習）の中で最も重要と考えられる「コミュニケーションスキル習得学習」に重点をおいて研修会を実施した。具体的には，モデリングやグルーピング等の効果的なスキル実践のポイントについて研修した。

## ② 取組内容の成果

ア 月1回のペースでWG会議を招集

し，学校はカリキュラム内容について提案し，大学やNPO等の協力を得ながら検討を重ね，「9年間を見通した国際教育で育てたい資質・能力の一覧表」を完成させた。

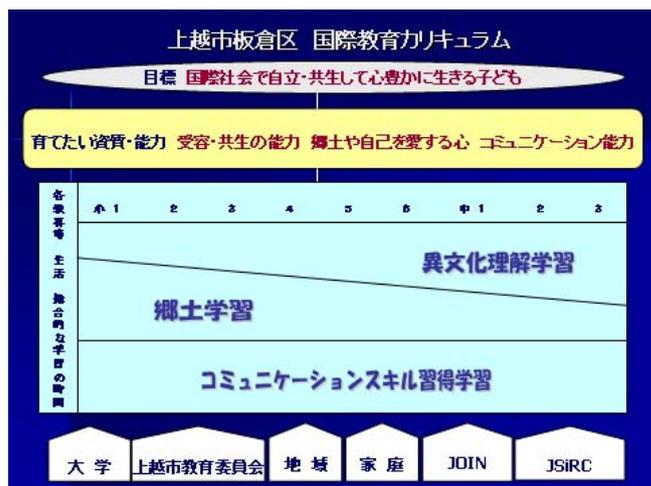
イ 借り物ではない，上越市板倉区独自の国際教育カリキュラムの骨子を完成させた。

(ア) 義務教育9年間の国際教育において「コミュニケーション能力」を基礎的・基本的な能力として，全学年で培うこととした。そして，このコミュニケーション能力の育成とともに，「郷土や自己を愛する心」をはぐくんでいく。そして，これらの資質・能力を育成していくことで，子どもたちの中に相手を受容し，ともに生きていくことのできる「受容・共生の能力」が育つものと考えた。

(イ) 国際教育における指導は，学校の教育課程全体を通じて行うものとした。

(ウ) 上越教育大学，NPO，地域や家庭，市教育委員会など，地域の様々な教育資源と連携を密にとりながら進めた。





ウ 授業力の向上には授業公開が有効であると考え、WG会議メンバー内の情報交換のツールとして立ち上げたメーリングリストを、中核校・協力校の教員が授業公開の情報を交換し合う場として活用し、多くのWG会議メンバーや教員が授業公開に参加した。これによって、授業力向上に対する教員の意識が著しく向上した。

エ 国際教育研修会においては、児童生徒に話し合いの失敗例や成功例を見せることによる具体的なイメージのつかませ方、話し合いのルール作り方、活発な話し合いを促すグループの

作り方など、すぐに実践できる多くの示唆を得ることができた。

③ 来年度の課題

- ア 上越市板倉区の国際教育カリキュラムの提案
- イ 国際教育の授業を成立させるために必要な学習方法・教材の開発
- ウ 国際教育カリキュラムの評価
- エ 上越教育大学や上越国際交流協会とのネットワーク作り
- オ 国際教育の観点を取り入れた英語活動のカリキュラムの検討と位置づけ
- カ 幅広い経験や優れた知識を有する人材や組織を活用するための支援体制の構築



(2) 中核校として（針小学校）

① 取組内容

ア 国際教育におけるコミュニケーション能力のとらえ  
 国際教育におけるコミュニケーション能力を「異なる文化をもつ者同士が相互に理解し、共生するプロセスに必要な能力」ととらえた。異なる文化をもつ者とは、自分とは異なるすべての他者のことである。つまり、他者とのかかわりを通して自分の思いや考えを進んで発信し、対話を通して他者を受け入れ尊重するために必要な能力ととらえた。

イ 国際教育のカリキュラム開発

- (ア) コミュニケーション能力育成を中心とした生活科および総合的な学習の時間の年間指導計画・構想表の作成
- (イ) 生活科および総合的な学習の時間における3つの資質・能力に強くかかわった単元の抽出
- (ウ) 各教科、道徳等における3つの資質・能力に強くかかわった単元の抽出

ウ 授業実践

コミュニケーション能力を育てるために、生活科および総合的な学習の時間を中心に授業実践を行ってきた。

(ア) 生活科での取組例 〈受容・共生の能力 ～他者理解・協力～〉

1年生の生活科では、同じところや違うところに気をつけながら、自分の考えをはっきり話したり、友だちの考えをしっかりと聞いたりすることができるようになることを

目指した。全員が意思表示をし、9割近い児童が自分の考えを発表した。はじめに発表が苦手な児童を丁寧に支援しながら発表させたことにより、発信しやすい雰囲気が出た。

(イ) 総合的な学習の時間の取組例 〈コミュニケーション能力 ～受信・発信～〉

3年生の総合的な学習の時間では、もっと知りたいことややってみようとするためのために、友だちや地域の人との考え方や見方に触れながらよさや違いを見つけ、今後の活動に生かすことができる力の育成を目指した。「コミュニケーション能力育成表」を活用しながら主に話し方のスキルを指導し、授業中に発表や話し合いの場を意図的に設けたことでスキル面での着実な向上が見られた。

エ 他国の人との交流活動

(ア) 年間計画に基づいた ALT との英語活動の実施

(イ) 活動展における他国の人や他国の文化と触れ合う活動の実施

② 取組内容の成果

ア かかわる対象を発達段階に応じて広げていったことにより、他者の意見・考えを自分の意見・考えに生かそうとする意識が高まった。

イ 他国の人と触れ合う活動場面を設定したことにより、他国や異なる地域に対する興味・関心が高まった。

ウ 地域に繰り返しかかわったことにより、地域のよさや特色、問題点の理解、そして地域を大切に思う気持ちが一層強くなった。

エ 「コミュニケーション能力育成表」活用により、コミュニケーションスキルが向上した。

③ 来年度の課題

ア 他者を受け入れ尊重する態度・能力のさらなる育成

イ 「話し合い」を活性化させるための問題意識の醸成、指導の工夫

ウ コミュニケーションスキルからコミュニケーション能力育成への指導についての検討

エ コミュニケーション能力育成の観点から教科と関連した指導計画の工夫・改善

オ コミュニケーション能力を中心にすえた授業構成や学習過程の検討・改善

(3) 中核校として（板倉中学校）

① 取組内容

ア 教育課程での位置付け

本校では、下に示す表のように教育課程全体を通じて国際教育を推進している。

能力領域	受容・共生の能力	郷土や自己を愛する心	コミュニケーション能力
教科	○各教科で外国や日本の文化、外国と日本の結び付きを学習する。 ○各教科で他とかかわり合う活動を実践し、受容・共生の能力を育成する。	○各教科で日本と郷土、自己を愛する心をはぐくむ。	○《基礎の習得》 下記の教科を中心に行う。 ・国語…伝え合う力の向上 ・技術・家庭（技術分野）…情報教育の充実 ・英語…基礎的な英会話の習得 ○《活用する力の育成》 ・前述の教科以外での発表場面
総合的な学習の時間	○板倉区、周辺区の伝統・文化や郷土の偉人について学んだり、外国人講師を招き、世界の文化を学んだりする活動を通して、自他を知り、共に生きようとする姿勢を育てる。		○《活用する力の育成》 ・話し合い、発表、インタビュー活動
道徳	○同和教育・人権教育学習 ○国際平和、人類愛、公德心、友情、信頼、社会連帯の項目にかかわる題材	○郷土を愛する心、生命の尊重、個性の伸長、理想の実現、真理への愛の項目にかかわる題材	○《活用する力の育成》 ・自分の考えを発表したり、他の意見を聞いたりする場面
学級活動	○学級づくり ○人間関係調整能力を育成する活動	○自分を知る、自分の適性進路を考える、自分に合った進路先を選ぶ等自分にかかわる内容	○《活用する力の育成》 ・考えをまとめ、発表する場面
行事	○いじめ防止学習プログラムを取り入れた学校行事（体育祭・合唱祭） ○1学年 宿泊体験学習 ○2学年 修学旅行	○入学式、卒業式、始業式、終業式 ○いじめ0スクール運動 ○生徒会入会式、部活動結団式	○《実践する力の育成》 ・日常生活で考えをまとめ、発表する場面 ・各種行事の中での話し合いの場面

## イ 具体的な活動

## (ア) 教科での取組例1 〈コミュニケーション能力 ～発信・受信～〉

国語科では、身に付けさせたいコミュニケーションスキル（三角ロジック・ナンバリング・ラベリング）を明確にしたり、生徒の考えが分散するような多角的な資料をそろえたりして話し合い活動を展開した。自分の立場や根拠を明らかにして臨んだため、主体的な態度で話し合い活動に参加する姿が見られた。

## (イ) 教科での取組例2 〈受容・共生の能力 ～異文化理解～〉

技術・家庭科（家庭分野）では、国内のリサイクル活動を学んだ後に、南アジアのストリートチルドレンの生活を学び、リサイクルが国際協力の一つの手段になっていることを知った。身近なリサイクルを扱うことにより、国際的なボランティア活動への理解を深めることができた。

## (ウ) 総合的な学習の時間での取組例 〈郷土や自己を愛する心 ～自文化理解～〉

1学年の単元「見つけよう雪国上越のよさ」では、板倉区と同様に冬の寒さが厳しい韓国出身の方から、寒さを克服するための生活の工夫に関する話を聞く場を設定した。ずっと雪国で育ってきた生徒にとって当たり前と感じていた事柄が、実は先人の知恵であり郷土の良さでもあることに気付く機会となった。また、同時に異文化を理解する機会にもなった。

## (エ) 道徳での取組例 〈受容・共生の能力 ～異文化理解・自己開発～〉

ケニアの子供たちの生活を知り、その子供たちのために自分たちができることを考えた。その後、自分の考えを再考するために講師の話聞く機会を設けた。そして、日本以外の国の生活を知ることや自分たちと生活体験が異なる人の話を聞くことが、世界に目を向けて自分たちに何ができるかを考えるきっかけとなり、国際協力として自らできることを主体的に考える姿へとつながった。

## (オ) 学級活動での取組例 〈コミュニケーション能力 ～受信～〉

二人で組になって役割演技を行い、聞き手としてどのような態度が望ましいかを思

考する機会を設けた。話す内容を考える時間を設定したり、聞き手の具体的な態度を示したりして、相手の気持ちを考えて聞こうとする態度の大切さに気付かせることができた。授業後の感想でも、「自分も機嫌が悪い時はそんな風に聞いていることがあったので、今度からはよく話を聞くようにしたい。」など、自分の日ごろの態度を振り返る機会にもなった。

(カ) 行事での取組例 〈コミュニケーション能力 ～かかわり合い～〉

行事成功に向けて、クラスでの話し合いの場面を設定した。体育祭では「協力」が必要なクラス対抗種目の「大縄飛び」を取り入れた。より回数を増やすために、どのクラスでも話し合い、練習し、さらに話し合うという姿が見られた。

② 取組内容の成果

- ア 国際教育の視点を盛り込んだ実践を全教科で行った。それらを「教科構想図」として、どの学年が、いつ、何を学習するのか把握できるようにした。
- イ 昨年度取り組めなかった異文化理解学習の授業実践を行った。国際的な問題をただ知るだけにとどまらず、その問題の解決のために自分は何をすべきかを考える機会となった。
- ウ 「受容・共生の能力」や「郷土や自己を愛する心」にかかわる生徒の自己評価から、多様な人々がいることを理解しようとしたり、自分自身を高めようとしたりする意欲が感じられるようになった。
- エ コミュニケーション能力の向上に向け、日常の学校生活で話す場面での指導を繰り返して行った。「聞く」ことに関する生徒の自己評価から、相手意識をもって話を聞くことができる生徒が増加し、コミュニケーションに対する関心を高まった。

③ 来年度の課題

- ア 他教科や総合的な学習の時間、行事との関連を考えた教科実践
- イ コミュニケーションにおいて、相手意識・目的意識を育てる手立ての工夫
- ウ 指導者の資質、指導力の一層の向上を図る研修の充実